

## 日本留学フェア参加：帝京マレーシア日本語学院 Study in Japan Info Day

Study in Japan Pavilion 2015 に引き続き、2015年12月21日（月）に、日本留学の情報提供の場として、Study in Japan Info Day が帝京マレーシア日本語学院の主催で行われた。筑波大学はこのイベントにはブース出展しなかったが、本語学院が予備課程コースとして認められていることから、留学生獲得に大きな意義を持つと予測されたため、岩本浩二准教授（文責）がネットワーキング構築を兼ねて会場を視察した。

イベントは、帝京マレーシア日本語学院で行われた。校舎はクアラルンプール日本人会と同じ建物内にあり、マレーシアの中でも日常的に日本語と接することができる環境にある。こちらの留学フェアには北海道大学、秋田大学、東北大学、帝京大学、大阪大学、岡山大学、広島大学、県立広島大学、九州大学、熊本大学、および滋慶学園グループが参加した。会場は2つの部屋に分かれてブースが設置された。手狭な会場と言うこともあったが、もともと日本留学を目指す学生が集まっているため、会場は廊下に人があふれるくらいの盛況ぶりで、各ブースでは学生が熱心に質問していた。

ところで、マレーシアの公的初中等教育では課程が11年間のため、大学への入学資格を得るためには1年～2年間、予備課程等で教育を受ける必要がある。公立の予備教育課程としては Matriculation や Foundation、Form6 があるが、その他、私立の予備教育課程も存在する。帝京マレーシア日本語学院は、マレーシア政府から予備課程コースとして認められている学校であり、単なる語学学校以上の意味を有する。また、本日本語学院の設立もマハティール前首相の要請があったとのことで、マレーシアの日本語学校の中でも老舗と言える。今回の訪問で、齋藤健次社長とお話する機会を得た。筑波大学と連携し優秀な学生を送ると共に、MJIIT とも積極的に連携したいと語られた。筑波大学のマレーシアにおける留学生獲得戦略の上では、本校やマラヤ大学予備教育部日本留学特別コース(AAJ)のような日本への留学を目的とした学校等との連携が重要であると思われる。今後それらの機関との連携を強化していきたい。



会場の様子。



帝京マレーシア株式会社社長齋藤健次氏